



琵琶湖岸に広がる農村地域。「三方よし」の精神が息づいている



八代田千鶴

(国研)森林機構 森林総合研究所関西支所

多様性の時代に

新たな生物多様性国家戦略が策定された2023年、会長に就任することになった。近年は、生物多様性だけでなく、人間社会でも様々な場面で多様性が重視されるようになり、多様性の時代とも言われている。「多様性」とは「いろいろな種類や傾向のものがあること」とされているが、「多様であること」とはどのような状態を示すのか、人によって感じ方が変わる曖昧な言葉でもある。だからこそ、奥行きのある魅力的な響きをもった言葉であると思う。

会長就任にあたり、大学ではなく一研究機関に身を置くものとして、会長の任にふさわしいだろうかと逡巡した。研究を仕事としてはいるが、純粋に学術的な探求というより野生鳥獣対策という課題解決型の研究であり現場対応の方が多い。対策技術をどのように現場へ落とし込むか、現場の関係者がどのように関わればうまくいくのか。それは、野生鳥獣を相手にしているようであり、実は人を相手にしているのである。

現場では様々な人と出会う。ともに対策に取り組みながら、意気投合することもあれば、意見が合わないこともある。けれども、それでいいのだと思う。多様な主体が関わり合いながら、ベストではなくてもベターが見つければよいのだから。「野生生物と社会」と聞いたときに、思い浮かべることにも人によって違うだろう。そうであるからこそその役回りだったのかもしれない。多様な人々が集うプラットフォーム、「野生生物と社会」学会の発展に貢献したいと思う。